

6 - 2 沖縄付近の海底地形・地質構造

Submarine Topography and Geological Structure in the Vicinity of Okinawa

海上保安庁水路部

Hydrographic Department, Maritime Safety Agency

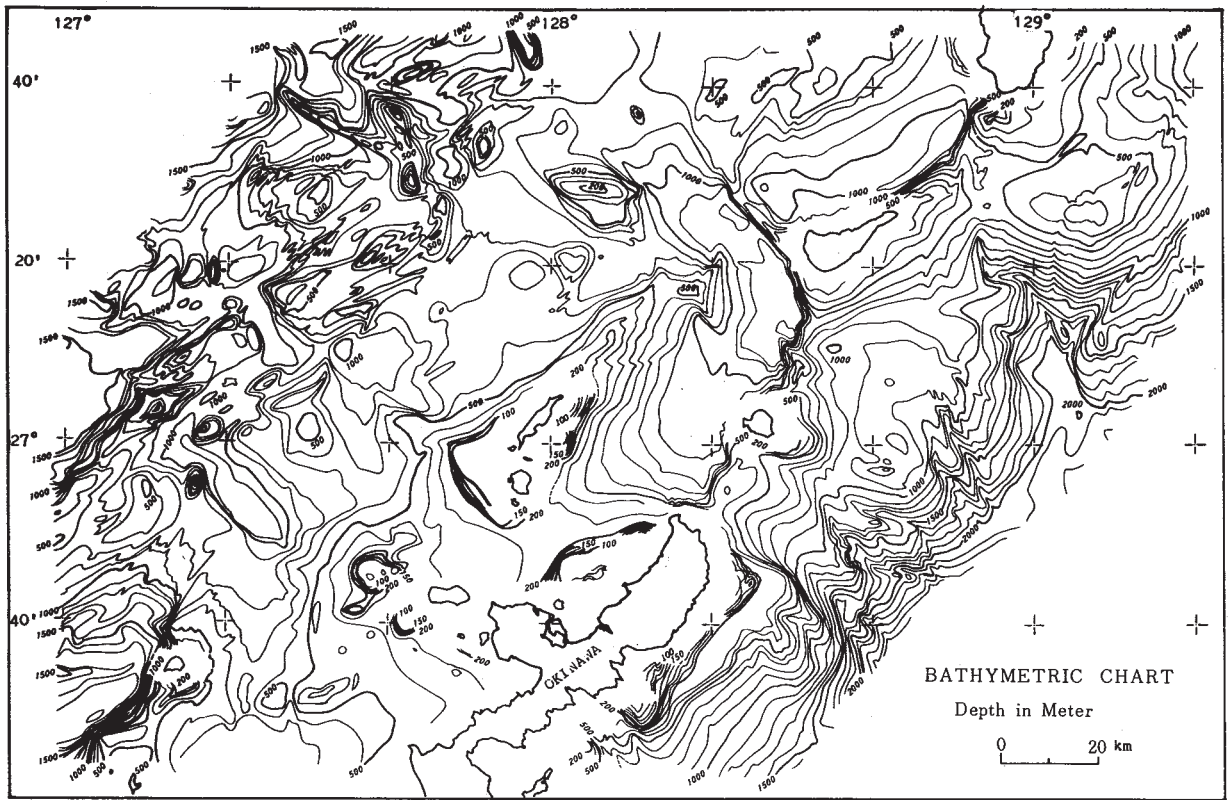
昭和50年4月～5月、海上保安庁水路部が沖縄本島北部海域において実施した、調査の結果について報告する。

調査海域の大地形は北東－南西の方向性を示し、南東側より海溝斜面、琉球列島、火山帯、縁辺海の一部、が見られる（第1図）。

地質構造は大地形と調和的な北東－南西、それに直交する北西－南東、の2方向が見られ、海底地形を支配している（第2図）。

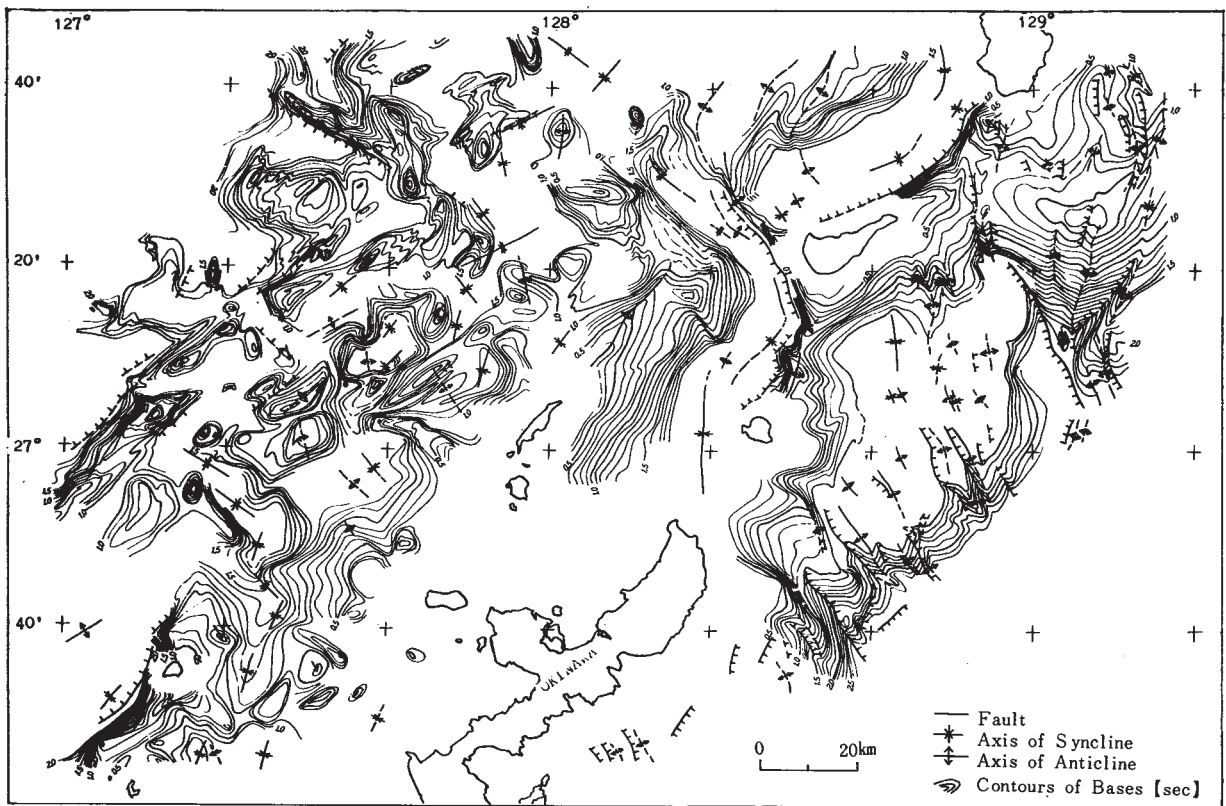
海溝斜面には壁に直交する、構造的起源と考えられる海底谷や、深海平坦面（水深500m、900m、2000m）が海底の一部に見られる。琉球列島のいくつかは、南東に傾く傾動地塊の頂部が島となっている。火山帯には小規模な凹凸地形が多数見られ、その一部から新鮮な剝離面を呈す含石英浮石が得られた。全般に本調査海域の海底地形は地質構造運動の影響を著しく受けており、この海域が現在、活発なテクトニックな活動の場であることを暗示している。

（桂 忠彦）



第1图 海底地形图

Fig. 1 Bathymetric chart.



第2图 海底地质构造图

Fig. 2 Submarine geological structure chart.